

シラヒゲウニ放流技術開発調査 (種苗生産・供給)

川口吉徳・松元則男・神野公広・井上慶幸

【目的】

シラヒゲウニ放流効果実証化の取り組みに供する放流種苗を生産・供給する。

【結果】

1 種苗生産実績

表1のとおり、平成19年11月採卵群から、殻径4.15～36.54mmの稚ウニを170,000個生産し、平成20年4月10日～平成20年5月27日に奄美海域の各地先及び、三島村、肝付町岸良地先に放流した。170,000個（平均18.38mm）の生産実績であった。

表1 種苗生産実績

目的・用途	出荷箇所	殻径 (mm)	出荷個数(個)	出荷時期
奄美栽培推進事業	1カ所	22.10	5,000	4/10
離島再生交付金事業	8カ所	23.23	71,000	4/10～5/27
漁協単独事業	1カ所	24.63	5,000	5/27
小計			81,000	
農林・支庁試験放流	5カ所	12.90	88,000	5/15～5/27
体験放流	3カ所	20.43	1,000	4/7, 6/5
小計			89,000	
合計		18.38	170,000	
	最大	36.54		
	最小	4.15		

2 種苗生産

①11月採卵（平成20年11月17日～12月24日採苗）

- ・幼生は126万個収容した。
- ・H18, 19年の生産において浮遊期において、市販のキートセラスグラシリスのみ給餌した区と、フェオダクチラウムを1：1で給餌した区で大きな差異は見られなかったことより、全てキートのみで飼育開始した。
- ・成長が遅かったため、日令15よりフェオダクチラウムをあわせて給餌した。
- ・全体的に例年より10～14日ほど成長が遅く、特に水槽No.1は奇形も多かったので日令25で飼育を中止した。
- ・採苗には数日早い個体もあったが、幼生は日令37で計数し、27.5万個を波板に採苗した。
- ・採苗した27.5万個を3.5t水槽1基、4t水槽2基で波板飼育を開始した。

②1月採卵（平成21年1月15日～2月16日採苗）

- ・幼生は日令32で計数し、波板に採苗した。
- ・1～3区をフェオダクチラウム：キートセラスグラシリスを1：1で、4区はキートセラスグラシリスのみを給餌して飼育を開始した。
- ・1区のみ成長が遅く、奇形が発生した。2～3区での生残率等の大きな差異は見られなかった。
- ・採苗した33.1万個を3.5t水槽3基で波板飼育を開始した。